



図書館が起業のお手伝い

2月19日の山陽新聞、2月22日の朝日新聞と立て続けに、鳥取県立図書館がビジネス支援サービスを充実させているという記事が載りました。そこで調べてみました。

地域の経済に貢献したい

起業や経営改善について助言するビジネス支援が図書館でひろがりつつあります。

図書館の持つ機能の冊子情報源やデータベース等を活用したり、研修会へ参加したり経営の知識を磨いた司書が担当してくれます。

全国でビジネス向けの支援を実施しているのは200館以上あり、なかでも鳥取県立図書館が注目されており、全国から視察が相次いでいるそうです。

鳥取県立図書館は、公共図書館として全国に先駆け2004年にビジネス支援を始めました。一般に流通していない業界誌や専門雑誌があったり、パソコンで新聞記事や企業情報などのデータベースが無料で利用できます。起業をめざす人には、金融機関や司法書士なども紹介してくれます。

また、利用者の要望に応じて住民の特性や購買力に関するデータを提供したり、企業情報や法令、官報などの関連情報も探してくれます。他の図書館から資料の取り寄せも応じてくれます。年間約二千件近いビジネス関係の相談にも対応しています。さらに、商工会が開く講演会で、企業経営者に図書館の活用法を説明します。特許や起業、就農などのセミナーも年約50回開いています。

2007年にはシャッターの補強器具を作る会社設立をめざす人に、業界の統計や台風発生数のデータを提供し、起業にこぎ着けたそうです。その他にも起業に繋がったケースが約10件あるそうです。

鳥取県立図書館はめざす!

県民に役立ち、地域に貢献する図書館になるために、鳥取県立図書館は3本の柱を掲げています。

第1の柱「仕事とくらしに役立つ図書館」では、ビジネス支援の他に、働く気持ち応援サービスや「働く気持ち応援コーナー」が設けられています。労働問題、資格取得、求人情報、メンタルケア等、必要な情報がワンステップで得ることができます。

医療、健康情報サービスのなかには、「闘病記文庫」があります。これは、各種疾病の闘病記を1か所に集め、病気についての情報を収集しようとする人を支援しています。「闘病記」とは、患者が病気と闘った手記です。闘病記には病気をどう捉え、病とどう向き合っどう生きるかという「生き方情報」が綴られています

第2の柱「人の成長・学びを支える図書館」では、生涯学習、子どもの読書推進などのサービスや、子どもたちの悩みを解決し、将来の夢を叶えるための「ドリームティーンズコーナー」などがあります。

第3の柱「鳥取県の文化を育む図書館」では、郷土情報の収集、活用や発信などのサービスを行っています。

岡山の図書館では

岡山県立図書館でも2004年ビジネス支援を始めました。岡山県立図書館の資料購入費は全国でも東京都立に次ぐ第2位の予算額で、豊富な蔵書が特徴です。ビジネス支援担当は社会科学班の5人の司書で、専門家を招いて創業相談会や起業をめざす人を対象にセミナーを開いたり、今後は中小企業経営者向けの図書館活用セミナーを予定しているそうです。

岡山市立中央図書館には、ビジネスコーナーはありません。鳥取県立図書館や岡山県立図書館のようなビジネス支援が必要ではないでしょうか。

下市このみ事務所からのお知らせ

▼ 3月 5日(火) 映画鑑賞会

10:00～ 下市このみ事務所

▼ 3月19日(火) まちづくり～おしゃべりネット♪

10:00～ 下市このみ事務所

▼ 2月21日(木)～3月21日(木) 2月定例岡山市議会